

第4章 地域別構想



第4章 地域別構想

(1) 地域別構想の考え方

① 地域別構想とは

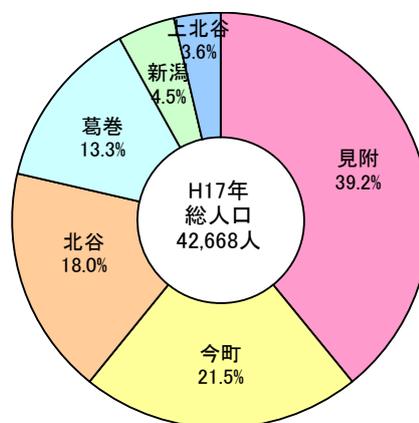
地域別構想は、全体構想で示した方針等を受け、地域の特性や住民の意向等を踏まえながら、地域に密着した都市整備や土地利用等の構想を示したものです。地域ごとに課題を整理し、魅力ある地域づくりを進めるなかで、市街地の「都市拠点」や地域間をつなぐ「都市軸」の充実等により、地域連携や交流機能を高め、地域から市全体の都市力を総合的に高めることで、都市将来像の実現を目指すものです。

地域別構想の策定にあたっては、市民アンケートや地域別懇談会を実施したほか、地域コミュニティの取組みを参考に計画内容の充実を図っています。

② 地域の区分

地域別構想は、生活圏域や日常生活上の交流範囲等から、公民館区を基本単位とし、6地域に区分して設定します。

各地域の名称、人口・世帯の状況は以下のとおりです。



地域別人口比率

表：各地域の人口等の状況

地域名	人口数		世帯数		世帯人員		備考
	H17 H12 (人)	増減 数率	H17 H12 (世帯)	増減 数率	H17 H12 (人/世帯)	増減数 (人/世帯)	
見附地域	16,736 17,650	-5.2%	5,444 5,406	0.7%	3.1 3.3	-0.2	
今町地域	9,164 8,607	6.5%	2,739 2,419	13.2%	3.3 3.6	-0.3	
北谷地域	7,670 7,918	-3.1%	2,247 2,244	0.1%	3.4 3.5	-0.1	
葛巻地域	5,672 5,209	8.9%	1,689 1,380	22.4%	3.4 3.8	-0.4	
新潟地域	1,899 2,485	-23.6%	456 575	-23.6%	4.2 4.3	-0.1	
上北谷地域	1,527 1,651	-7.5%	408 416	-1.9%	3.7 4.0	-0.3	

出典:国勢調査

地域別構想地域区分図



第4章◇地域別構想 (2) 見附地域

(2) 見附地域

1) 地域の概況と課題

【位置・土地利用】

- ・ 市域のほぼ中央に位置するこの地域は、本市の中心として古くから栄えた地域で、地域の西側は市街化区域に指定され、商業・行政・文教・厚生等の主要な都市機能が集積しています。
- ・ 地域の中央は市街化調整区域で平野地に優良な農用地が広がっており、東側は森林が広がる丘陵地で都市計画区域外となっています。
- ・ 県道遅場見附線沿道に集落地が形成されています。
- ・ 市街地に近い水道山、観音山、元町の森林地域では多自然型公園の利用が図られており、今後も施設の維持・有効活用を図っていく必要があります。

【人口・世帯の動向】

- ・ 地域の人口は減少傾向にありますが、世帯数は増加しています。市街地では近年開発が進んだ本所等の一部で人口の増加がみられますが、本町や新町など商業地を中心とする旧市街地では減少しています。
- ・ 地域人口の年齢構成は、全市と比較して年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15歳～65歳未満）の比率が低く、老年人口（65歳以上）の比率が高くなっており、少子高齢化が進んでいます。

【都市整備】

- ・ 本町や新町などの旧市街地では、空き家や空き店舗の有効活用をはじめ、商業地区の機能改善を進めるなど、活性化を図る必要があります。
- ・ 木造老朽家屋の密集する地区では、住環境の改善を図る必要があります。
- ・ 市街化区域内に残る未開発の土地については、基盤整備の整った優良な住宅地等の開発を誘導していく必要があります。

【都市施設・交通】

- ・ 市街地への通過交通の流入による渋滞を解消するため、既定の都市計画道路や幹線道路の整備を促進する必要があります。
- ・ 市街地の下水道整備は完了していますが、今後も雨水対策の推進と老朽化した処理施設の計画的な改善が必要です。
- ・ JR見附駅周辺は、交通基点として公共交通のネットワーク機能の向上やバリアフリー機能の充実などを図る必要があります。
- ・ 保健・医療・福祉が集積する市立病院周辺の地区では、動線となる歩道等の整備や段差の解消等のバリアフリー化を推進する必要があります。
- ・ 公園が不足している市街地では、基幹公園の整備やポケットパークの整備を進めることが重要です。
- ・ 集落地においても公園や下水道等生活基盤の整備や冬期間の安全な交通環境の維持・整備など、住環境の改善を進める必要があります。

【自然環境・緑地景観】

- ・ ほ場整備の実施地域など、優良な農地は今後も保全を図る必要があります。
- ・ 東側に連なる森林地域は今後も保全するとともに、有効に活用していく必要があります。

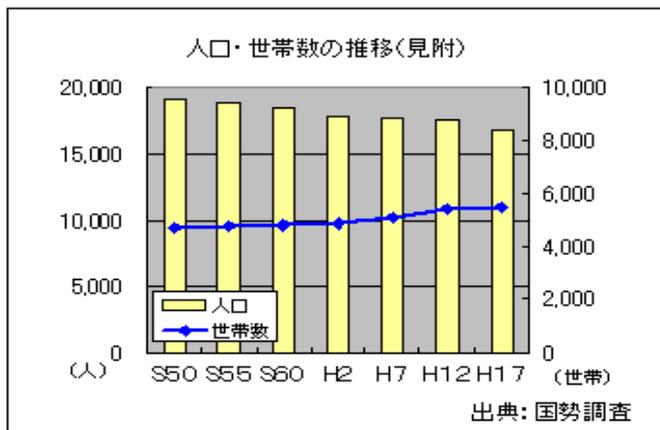


第4章◇地域別構想 (2) 見附地域

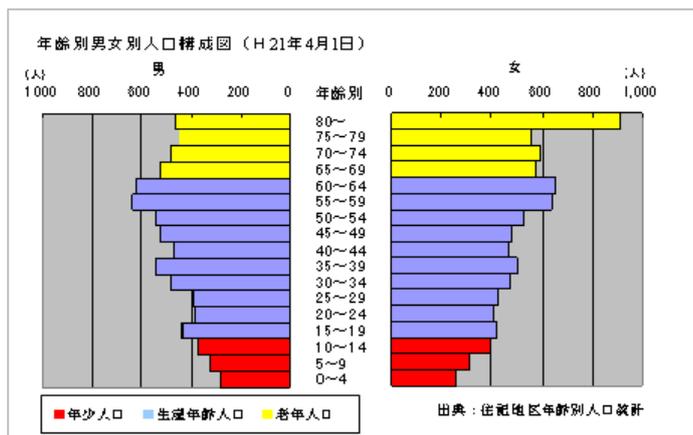
- ・市街地内における緑化の推進が必要です。
- ・刈谷田川の河川空間については、有効に利用していく必要があります。

【その他】

- ・毎年7月に「見附まつり」が開催され、花火大会や県内でも珍しい樽ばやしが開催されます。



見附まつり花火大会



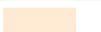
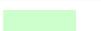
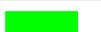
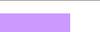
地域の人口構成比率		市全体	見附地域
老年人口 (65歳以上)	25.3%	27.5%	
生産年齢人口 (15歳~65歳未満)	62.0%	60.7%	
年少人口 (15歳未満)	12.7%	11.8%	

見附まちづくり市民アンケート結果 (まちづくりに関する設問: 上位3位まで)

H18年実施

設問	1位	2位	3位
地域を良好な住宅地にしていくために重要な取組み	空き家や空き店舗などへの対策 40.6%	美しい街並みとなるような景観への取組み 26.2%	家の建て込みによる災害時の危険防止 24.6%
概ね10~20年後、どのような地域になれば良いと思うか。	防災・防犯性に優れた安心・安全なまち 40.6%	身近な生活基盤(生活道路や子供の遊び場等)が整ったまち 30.5%	住宅中心の静かで落ち着いた生活のできるまち 26.2%
道路・交通等で特に重点的に取り組むべきもの	歩道を整備・拡幅したり、段差をなくす 28.3%	歩行者専用道路や自転車道路を整備する 20.3%	家のまわりの身近な生活道路を整備・拡幅する 11.2%
公園や緑地の整備等で特に重点的に取り組むべきもの	災害時に避難地や救援拠点として活用できる公園や広場づくり 23.0%	日常の子供の遊び場となる小さな公園や緑地づくり 21.9%	休日に家族で過ごせる大きめの公園や緑地・広場づくり 19.3%
防災・防犯対策で、特に重点的に取り組むべきもの	犯罪防止に配慮した公共施設や街路灯の整備 34.8%	避難場所・避難路・緊急輸送道路の整備やライフライン施設の機能確保 20.3%	下水道整備など大雨による浸水被害に対する対策 13.9%
自然環境や美しい街並みの景観のために重要な取組み	電柱を無くし、街路樹を整備するなど道路をすっきりきれいに 24.6%	山や丘陵、水辺等の自然景観を残す 15.5%	田畑等・農地を残し田園的風景を守っていく 13.4%

第4章◇地域別構想
(2) 見附地域

凡 例			
	交通網		商業地
	公共施設		集落地
	公園・緑地		農用地
	一般住宅地		丘陵地
	産業共存型住宅地		都市計画区域界

地域概況図(見附地域)



2) 地域将来像

① 目指す将来像

本市の発展を支えてきた商店街を中心とする市街地では、集積された既存の都市基盤や地域資源などを有効に活用して活性化策を検討し、活気のあるまちづくりを目指します。また、鉄道やバス等、公共交通によるアクセスの強化を図り、歩いて暮らせる利便性の高い快適な都市づくりを目指します。医療・福祉の里では機能の充実を図り、健康で安心して暮らせる都市づくりを目指します。住宅地では、防犯、防災性が高い良好な居住空間の形成を目指します。

集落地は、豊かな自然環境を保全し、美しい田園風景の維持形成を図ります。また、地域の特性や資源を活かして、市街地等との地域交流を促進し、安全で住み良い地域づくりを目指します。



■まちづくり目標

- ・既存の都市基盤や地域資源を活かした活気あるまちづくり
- ・快適で安全に歩いて暮らせるまちづくり
- ・医療福祉が充実した健康で安心して暮らせるまちづくり
- ・防犯防災機能の高いまちづくり
- ・豊かな自然、美しい田園風景に囲まれた住み良いまちづくり

② 地域における拠点・都市軸

見附地域では以下の拠点、都市軸を配置します。

【見附地域の拠点】

見附地区商業地：本町・新町など商店が建ち並ぶ地区

医療福祉地区：市立病院を核とする医療・福祉の里の地区

駅前交流地区：見附地区・今町地区の中間に位置する見附駅周辺地区

公園・緑地：水道山公園、観音山公園、運動公園、市民の森、大平森林公園、杉沢の森

【見附地域の都市軸】

広域軸：市外広域都市圏からの主要な動線となる交通網（JR信越本線）

地域幹線軸：今町市街地や近隣市と地域を結ぶ地域幹線道路（主要地方道など）

循環軸：市街地の各拠点をつなぐ主要な道路網（都市計画道路など）

河川軸：地域間をネットワークする主要な河川（一級河川刈谷田川）

3) 地域づくりの方針

① 土地利用の方針

【住み続けたくなる居住空間の形成】

- ◆ 既存の都市基盤を十分に活かしながら、必要な都市基盤や施設の整備を進めます。
- ◆ 本町、新町など木造建物が密集している地区は、建物の不燃化や耐震化、オープンスペースの確保等、安全で良好な住環境への誘導を図ります。
- ◆ 市街化区域内で今後市街化が図られる土地については、生活道路や公園緑地などの都市基盤が整備された優良な住宅地等の利用へ誘導を図ります。
- ◆ 集落地では、生活道路や身近な公園、下水道（浄化槽）等の基盤施設の整備改善を図るほか、公共交通などによる市街地とのアクセスの強化を図り、住環境の向上を目指します。
- ◆ 都市計画法適用区域外の堀溝町や杉沢町等は、集落環境や営農環境に悪影響を与える建築行為や開発行為について防止するよう配慮します。

【快適な商業空間・活気ある交流の場の形成】

- ◆ 本町、新町の商業地は、空き店舗などの既存ストックの有効活用を推進するとともに、市街地の中心に位置する利点を活かして、交流施設の整備や利便性・回遊性を考慮した駐車場の確保・整備、歩行空間のバリアフリー化、その他ソフト事業など、総合的な取り組みにより、快適に買い物が楽しめる特色のある商業地を目指します。
- ◆ 商業地およびその周辺では、歩いて暮らせる居住空間の創出や老人憩いの家等の利便施設の整備改善など、高齢化社会に対応した利便性の高い地区の形成を目指します。
- ◆ JR見附駅及びその周辺は、通勤・通学や市外からの観光客等だれもが利用しやすい交流空間として、また公共交通が交わる交通体系の拠点として、駅舎のバリアフリー化や駐輪場の維持改善など都市機能の充実を図ります。また、市内外の人々が交流し利用しやすい駅前交流拠点として、商業施設や交流施設の誘導を目指します。
- ◆ 市民交流センター（ネーブルみつけ）と周辺の行政施設が集積する地区は、人々が交流する魅力ある空間として、緑化やオープンスペース等の確保に努め、交流の促進や多様な情報発信などによる賑わいの創出を図ります。

【安全で安心して生活できる空間の形成】

- ◆ 市立病院をはじめ医療・福祉施設が集積する地区では、通院者が利用しやすく、緊急車両も通行しやすい道路空間の確保やバリアフリー化を図ります。
- ◆ 住宅の耐震化の誘導を図るほか、避難拠点の耐震整備などにより災害に強いまちを目指します。
- ◆ 冬期間における安全快適な生活を確保するため、地域の協力を得ながら堆雪スペースの確保を図ります。
- ◆ 集中豪雨等の水害対策として、地下貯留施設や遊水地などの総合的な治水対策を実施することで、水害に強いまちづくりを進めます。

【地域を支える産業空間の形成】

- ◆ 地域の中央から東側に広がる優良な農用地については、今後も優良な農業生産基盤として積極的な保全を図ります。

② 交通体系の方針

【見附駅周辺の整備推進】

- ◆ J R見附駅周辺については、J Rから路線バスやコミュニティバス等の他の交通機関への円滑な乗り継ぎが図られるよう公共交通ネットワーク機能の向上や駅舎のバリアフリー化を目指します。
- ◆ J R見附駅から医療・福祉地区、商業地、交流拠点等へのアクセス機能を強化するため、歩道のバリアフリー化などの動線整備や公共交通等による連絡機能の強化を検討します。

【安全な歩行者空間の形成】

- ◆ 交通量の多い道路や交差点では、学童をはじめ歩行者が安全に通行できるよう、横断施設や歩道の整備を推進します。
- ◆ 高齢者や障害者が安全・安心して通行できるよう、歩道の段差解消や点字ブロックの整備など、バリアフリー化を推進します。
- ◆ 防犯灯の維持・改善などにより、夜間の安全な歩行空間の確保に努めます。

【都市計画道路の整備推進】

- ◆ 都市計画道路本町葛巻線、大川端線、見附下新町線など整備を進めている都市計画道路は、関係機関と連携し早期の整備完了を目指すとともに、未整備区間の整備についても関係機関と連携を図りながら検討を行います。
- ◆ 都市計画道路見附下新町線の瑞祥橋は、歩道の整備や道路の拡幅など、安全な通行が確保されるよう関係機関と連携して早期整備を目指します。
- ◆ 長期未着手の都市計画道路は、緊急度や重要度を整理し、整備・見直し等の検討を行います。

【公共交通によるネットワークの形成】

- ◆ J Rや路線バス等とコミュニティバス、デマンド型地域交通等の連携により、公共交通の円滑な乗り継ぎ環境の整備を進め、利便性が高い公共交通のネットワークづくりを目指します。
- ◆ 集落地ではデマンド型地域交通などによる高齢者等の地域交通について検討します。

【地域実態に見合った交通体系の検討】

- ◆ 多雪地域の冬期の交通安全の確保など、地域生活の状況に応じて改善を図ります。
- ◆ 通過交通による市街地の渋滞を緩和するため、市街地周辺の幹線道路のネットワーク機能の向上を図ります。
- ◆ 市街地の散策や観光、近隣への買い物などについて、環境への負荷がより少なく、健康づくりに効果が高い自転車利用の促進に向けた取り組みを強化し、自転車道や自転車レーンなどのネットワーク化をすすめます。
- ◆ 地域生活に支障を与えている行き止まり道路や幅員が狭い道路の改善等について検討します。

③ 公園緑地・都市景観の方針

【人々が憩い、ふれあいのあふれる公園緑地の形成】

- ◆ 水道山公園、観音山公園や見附運動公園等は、自然観察・散策やスポーツ・レクリエーションなどで広く利用される市街地近郊の公園として維持・改善を図ります。
- ◆ 商業地や行政地区等、多くの人が集まる地区では、多様な交流空間としてポケットパークなど魅力的なオープンスペースの確保に努めます。
- ◆ 身近な公園機能が不足している地区については、空閑地等を利用して、子どもから高齢者まで広く利用できるコミュニティ広場などの整備を推進します。
- ◆ それぞれの公園が有効に活用されるよう、遊歩道などによる各公園のネットワーク化を検討します。

【人々が潤いややすらぎを感じる豊かな自然・良好な景観の形成】

- ◆ 市街地の緑化や統一的な景観づくりを推進し、潤いのある都市環境の形成を図ります。
- ◆ 豊かな自然環境を活かして広域から多くの人が集まる大平森林公園、市民の森、杉沢の森については、今後も景観に配慮して維持管理を図ります。またレクリエーション利用など、有効な活用方法を検討します。
- ◆ 丘陵地の森林など、豊かな自然環境は今後も積極的に保全を図ります。
- ◆ 地域の南側を流れる刈谷田川の河川空間については、水辺の自然的景観を活かして遊歩道や公園、広場等の整備を推進し、レクリエーション利用などの有効利用について検討します。



市民の森



水道山公園

④ その他の方針

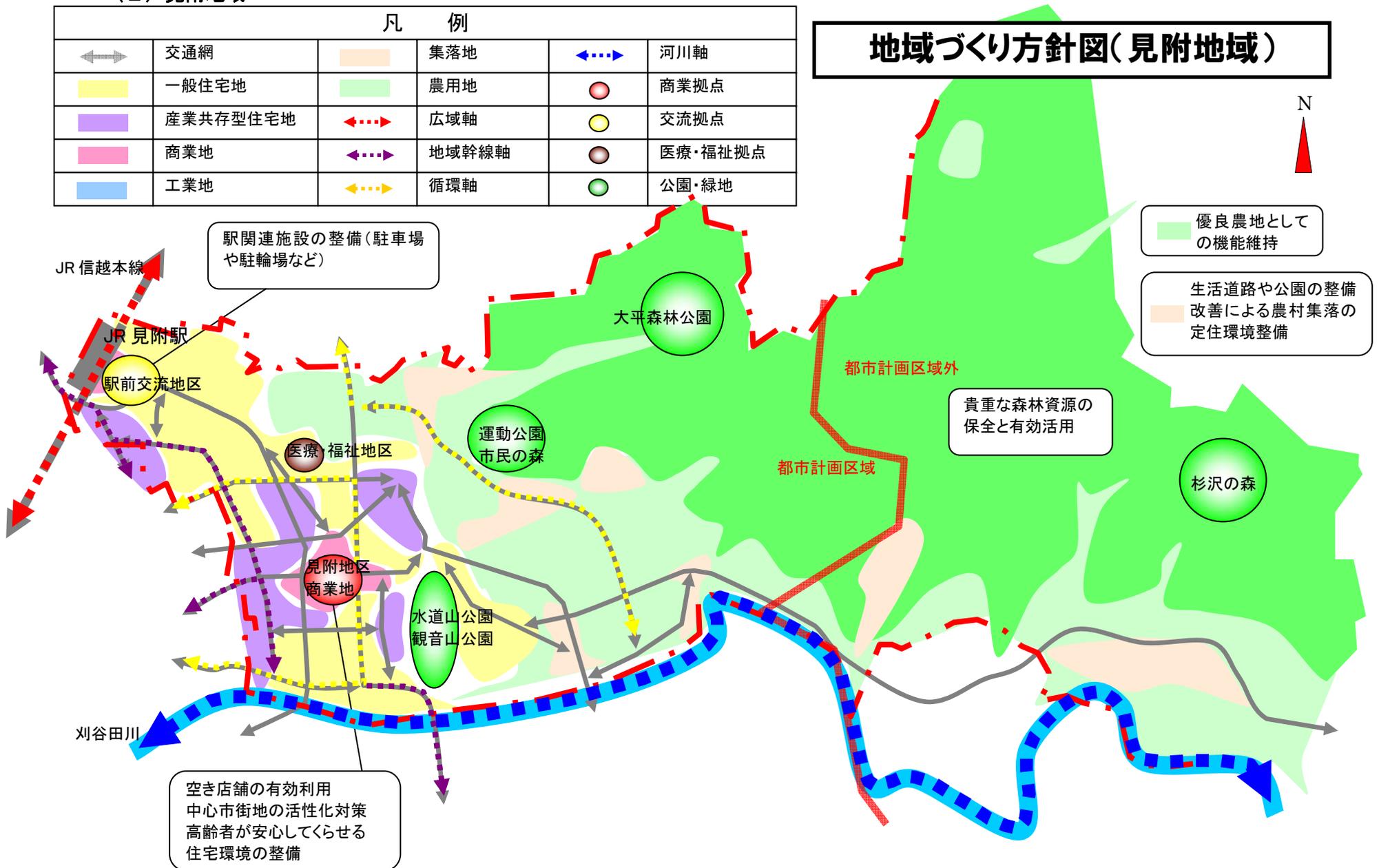
- ◆ 公共下水道見附処理区は、供用開始から40年近く経過していることから、今後は老朽管渠対策や処理施設の再配置・統合などを検討していきます。
- ◆ 市街地に隣接するほ場整備事業以外の農用地は、今後も農用地として維持保全を図ることを基本としますが、必要に応じて十分な調整を行いながら計画的かつ段階的に都市的土地利用への転換も検討していくものとします。
- ◆ 地域の神社や伝統行事など、地域の歴史的資源の保存や継承を支援します。



第4章◇地域別構想
(2) 見附地域

凡 例					
	交通網		集落地		河川軸
	一般住宅地		農用地		商業拠点
	産業共存型住宅地		広域軸		交流拠点
	商業地		地域幹線軸		医療・福祉拠点
	工業地		循環軸		公園・緑地

地域づくり方針図(見附地域)



地域の方々からの提案（地域別懇談会 ワークショップより）

見附地域の現状・課題

- 人口が減少し、学生が就職できるUターン体制がない。
- 繊維産業が衰退しても、新たな事業を興せる体制になっていない。
- 商店街は衰退し、後継者もいない。
- 市街地中心部に空き家や空き店舗が多い。
- 雁木の街並みが減り、見附を特徴づける建物がなくなった。
- 新興住宅やアパートで人口増加した地区では、町内で親睦を図る機会が少なくなった。
- 今は特産品ではないが、今後物産・名物として扱える商品がある。
- 見附まつりやニットまつりなどのイベントのPRが不足している。
- まつりに参加する若者が少ない。
- 見附駅は特急が停まる駅なので、これを活かしたまちづくりが必要。
- 見附高校の学業・スポーツの強化、魅力ある学校として市で施策を展開。
- 杉沢地区は消雪パイプが無く、道路整備が遅れている。
- 杉沢の森の活用。

地域づくりの取り組み案

街なか再生

- まちなか賑わい支援事業等の活用、空家、空店舗、空地を活用した中心部や商店街の再生。
- 中心市街地での、歩いて暮らせる利点を活かした高齢者が安心して暮らせる住宅地の整備。
- 市街地内の工場跡地での、住宅地としての利用純化、閑静な住宅街の形成。

交通

- 駅前周辺の景観に配慮したP-オートライド 駐車場や駐輪場の効果的な整備運用。
- 既存道路や雁木・通学路の維持管理徹底による安心安全な歩行者空間の確保。
- 地震後で弱体化した道路路盤の改修。
- 交通規制の仕方の再検討による交通の流れの改善。

公園緑地

- 杉沢の森など、自然を活かした公園緑地の重要観光拠点としての市民協働による維持・活用。

防災

- 密集住宅地における幅員の狭い道路の改善と住宅不燃化・耐震化の推進。
- 杉沢地区は降雪量多く除雪も困難のため、融雪対策を積極的に検討。

コミュニティ・個性

- 地域の拠点となる集会場を整備し、コミュニティの活性化を図る。
- 交番が減り町内組織が弱体化する中で、風紀を維持するための町内自治組織を新たな編成。
- 地場産業や新たなアイデアによる見附ブランド構築PRと若者がUターンできる就業の場の創出。
- 行政との協働での伝統文化の維持、PR。



(3) 今町地域

1) 地域の概況と課題

【位置・土地利用】

- ・ 市域の北西部に位置するこの地域は平野地で、西側には行政界に沿って刈谷田川が流れ、南部の国道8号周辺に市街地が形成されています。市街地以外は市街化調整区域で、かつ農業振興地域です。
- ・ 国道8号沿道では沿道サービス系の土地利用が進んでおり、今後も交通利便性を活かした計画的な土地利用を推進する必要があります。

【人口・世帯の動向】

- ・ この地域は、他地域からの地区編入の影響もあり、人口・世帯数とも増加傾向にあります。近年開発が進んだ上新田町等で人口・世帯数が増加していますが、古くから栄えた今町市街地中央部の商業地や住宅地では減少しています。また、集落地でも人口減少が進んでいます。
- ・ 地域人口の年齢構成は、生産年齢人口（15歳～65歳未満）の比率が高く、老年人口（65歳以上）比率は市内で一番低い地域です。年少人口（15歳未満）の比率は、市の平均より低くなっています。

【都市整備】

- ・ 新たに整備される刈谷田川跡地の利活用について検討を進める必要があります。
- ・ 木造老朽家屋の密集する地区では、住環境の改善を図る必要があります。
- ・ ほ場整備区域に含まれず、かつ河川や住宅地に挟まれている上新田南部の農地については、今後市街化を誘導する地区として、交通利便性など地区の優位性を活かした土地利用を進める必要があります。
- ・ 新たに整備を進める一団の土地については、地区計画等により良好な市街地の形成を図る必要があります。

【都市施設・交通】

- ・ 都市計画道路見附今町線の整備促進と、これに伴い増加する交通量に対応した地域の道路整備が必要です。
- ・ 市街地湛水の原因となる貝喰川の整備を促進するよう関係機関と連携して対応することが必要です。
- ・ 集落地においても、下水道（浄化槽）や公園等の整備により住環境の向上を図ることが重要です。

【自然環境・緑地景観】

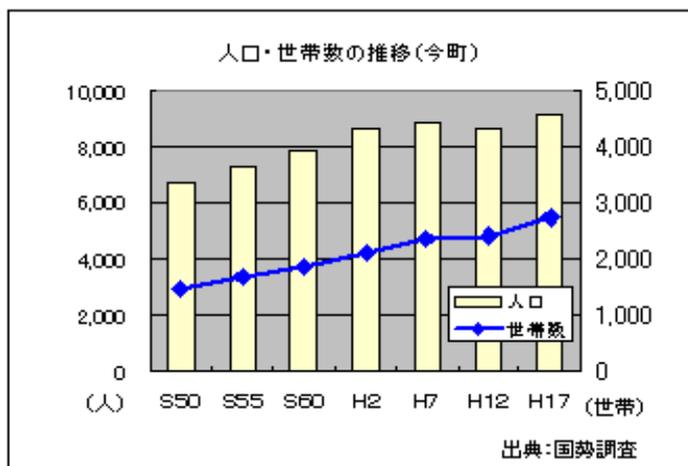
- ・ 地域北部の平野地にはほ場整備された優良農地が広がっており、今後も保全が必要です。
- ・ 市街地内における緑化の推進が必要です。
- ・ 刈谷田川の河川空間については、有効に利用していく必要があります。

【その他】

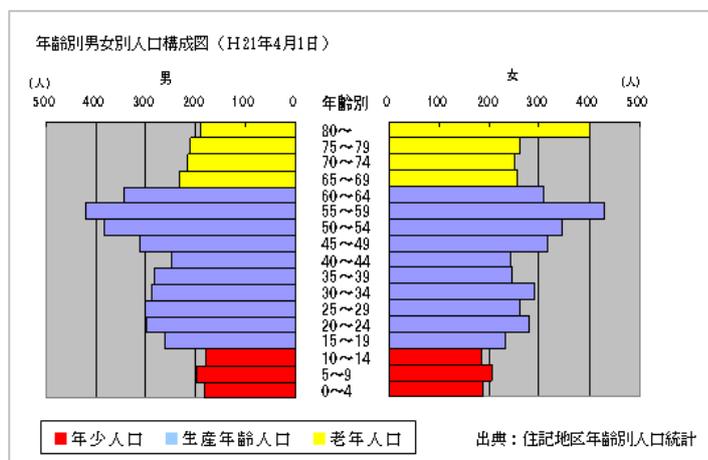
- ・ 三百数十年前が始まりといわれる「見附今町・長岡中之島大風合戦」が、毎年6月に行われ、勇壮な祭りとして地域の伝承行事として継承されています。



第4章◇地域別構想 (3) 今町地域



見附今町・長岡中之島大凧合戦



	地域の人口構成比率	
	市全体	今町地域
老年人口 (65歳以上)	25.3%	21.8%
生産年齢人口 (15歳~65歳未満)	62.0%	65.9%
年少人口 (15歳未満)	12.7%	12.3%

見附まちづくり市民アンケート結果 (まちづくりに関する設問:上位3位まで)

H18年実施

設問	1位	2位	3位
地域を良好な住宅地にしていくために重要な取組み	空き家や空き店舗などへの対策 38.3%	美しい街並みとなるような景観への取組み 30.3%	区画整理や再開発事業による計画的なまちづくり 22.4%
概ね10~20年後、どのような地域になれば良いと思うか。	防災・防犯性に優れた安心・安全なまち 42.1%	身近な生活基盤(生活道路や子供の遊び場等)が整ったまち 34.6%	豊かな自然環境や田園環境等に恵まれたのどかなまち 24.3% 鉄道やバスなどの公共交通の便がよいまち 24.3%
道路・交通等で特に重点的に取り組むべきもの	歩行者専用道路や自転車道路を整備する 19.6% 家のまわりの身近な生活道路を整備・拡幅する 19.6%	歩道を整備・拡幅したり、段差をなくす 18.7%	
公園や緑地の整備等で特に重点的に取り組むべきもの	災害時に避難地や救援拠点として活用できる公園や広場づくり 30.8%	日常の子供の遊び場となる小さな公園や緑地づくり 19.6%	休日に家族で過ごせる大きめの公園や緑地・広場づくり 15.9%
防災・防犯対策で、特に重点的に取り組むべきもの	犯罪防止に配慮した公共施設や街路灯の整備 38.3%	避難場所・避難路・緊急輸送道路の整備やライフライン施設の機能確保 17.8%	下水道整備など大雨による浸水被害に対する対策 15.0%
自然環境や美しい街並みの景観のために重要な取組み	電柱を無くし、街路樹を整備するなど道路をすっきりきれにする 32.7%	田畑等・農地を残し田園的風景を守っていく 13.4%	屋外広告物を規制して、道路沿いの景観をきれいに 8.4%

第4章◇地域別構想
(3) 今町地域

刈谷田川

地域概況図(今町地域)



2) 地域将来像

① 目指す将来像

今町地域は、北陸自動車道ICに近く、また国道8号が縦断するなど、恵まれた交通網が整備されていることから、これらの優位性を活かした新たな拠点整備によるにぎわいあるまちづくりを目指します。

旧市街地では都市基盤や地域の恵まれた資源を有効に活用し、歩いて快適に暮らせる活気のある地域を目指します。また、交通安全、防犯、防災性が高いまちづくりを目指します。新興住宅地は今後も良好な住環境の維持を図ります。

集落地では優良な農地や豊かな自然環境を保全するとともに、下水道（浄化槽）の整備など居住環境の改善を図ります。

■まちづくり目標

- ・交通の優位性を活かした新たな拠点整備によるにぎわいあるまちづくり
- ・防犯防災機能の高いまちづくり
- ・地域資源を活かした活気あるまちづくり

② 地域における拠点・都市軸

今町地域では以下の拠点、都市軸を配置します。

【今町地域の拠点】

今町地区商業地：今町1、2丁目など商店が建ち並ぶ地区

広域交流地区：上新田地区の国道8号沿線

産業拠点：見附工業団地

【今町地域の都市軸】

広域軸：市外広域都市圏からの主要な動線となる交通網（北陸自動車道、国道8号）

地域幹線軸：見附市街地や近隣市と地域を結ぶ地域幹線道路（主要地方道など）

循環軸：市街地の各拠点をつなぐ主要な道路網（都市計画道路など）

河川軸：地域間をネットワークする主要な河川（一級河川刈谷田川）

3) 地域づくりの方針

① 土地利用の方針

【住み続けたくなる居住空間の形成】

- ◆ 既存の都市基盤を十分に活かしながら、必要な都市基盤や施設の整備を進めます。
- ◆ 今町1、2丁目などの木造建物が密集している地区は、建物の不燃化や耐震化、オー

第4章◇地域別構想

(3) 今町地域

プンスペースの確保など、安全で良好な住環境への誘導を図ります。

- ◆ 市街化区域内で今後市街化が図られる土地については、生活道路や公園緑地など都市基盤が整備された優良な住宅地等の利用へ誘導を図ります。
- ◆ 集落地では、生活道路や身近な公園、下水道（浄化槽）等の基盤施設の整備改善を図るほか、公共交通などによる市街地とのアクセスの強化を図り、住環境の向上を目指します。

【快適な商業空間・活気ある交流の場の形成】

- ◆ 今町1丁目などの商業地については、近隣住区を対象としてまちなか賑わい支援事業等を活用した空き店舗の有効活用など既存ストックの利用を推進します。
- ◆ 今町商店街に隣接する刈谷田川の河川改修跡地については、防災や市民及び隣接市との交流、地域経済活性化などを考慮した整備を進め、効果的な利活用が図られるよう隣接市や新潟県と協働で適切な整備について検討します。
- ◆ 上新田町南部の国道8号沿線で今後市街化を誘導すべき地区は、交通条件の優位性を活かし、広域から人々が集まる交流拠点として多様なニーズに対応する店舗や集客施設などを誘導し、新たな賑わいの創出による地域の活性化を目指します。
- ◆ 商業地や公共施設、近隣の拠点間は、コミュニティバス等公共交通によるネットワーク化を図り、地域交流による活性化を目指します。

【安全で安心して生活できる空間の形成】

- ◆ 住宅の耐震化の誘導を図るほか、避難拠点の耐震整備などにより災害に強いまちを目指します。
- ◆ 冬期間における安全快適な生活を確保するため、地域の協力を得ながら堆雪スペースの確保を図ります。
- ◆ 市街地の浸水被害を防ぐため、貝喰川等の流域全体を視野に入れた治水事業を推進します。

【地域を支える産業空間の形成】

- ◆ 見附工業団地およびその周辺部については、隣接する農地など周辺環境との調和に配慮しながら工業生産機能を維持し、地域の活力向上を図ります。
- ◆ 地域の北部に広がるほ場整備された農用地は、今後も優良な農業生産基盤として積極的な保全を図ります。

② 交通体系の方針

【安全な歩行空間の形成】

- ◆ 交通量の多い道路や交差点は、学童をはじめ歩行者が安全に通行できるよう、横断施設や歩道の整備を推進します。
- ◆ 刈谷田川改修に伴う中之島大橋の開通により交通量の増加が見込まれる上新田地区では、道路の拡幅や歩行空間の整備を行うなど、安全な交通の確保を図ります。
- ◆ 高齢者や障害者が安全・安心して通行できるよう、歩道の段差解消や点字ブロックの整備など、バリアフリー化を推進します。
- ◆ 防犯灯の維持・改善などにより、夜間の安全な歩行空間の確保に努めます。

【都市計画道路の整備推進】

- ◆ 長期未着手の都市計画道路は、緊急度や重要度を整理し、整備・見直し等の検討を行います。

【公共交通によるネットワークの形成】

- ◆ 路線バス等とコミュニティバス、デマンド型地域交通等の連携により、公共交通の円滑な乗り継ぎ環境の整備を進め、利便性が高い公共交通のネットワークづくりを目指します。
- ◆ 集落地ではデマンド型地域交通などによる高齢者等の地域交通について検討します。

【地域実態に見合った交通体系の検討】

- ◆ 市街地の散策や観光、近隣への買い物等について、環境への負荷がより少なく、健康づくりに効果が高い自転車利用の促進に向けた取り組みを強化し、自転車道や自転車レーン等のネットワーク化をすすめます。
- ◆ 地域生活に支障を与えている行き止まり道路や幅員が狭い道路の改善等について検討します。

③公園緑地・都市景観の方針

【人々が憩い、ふれあいのあふれる公園緑地の形成】

- ◆ 商業地や交流地区など、多くの人が集まる地区では、多様な交流空間としてポケットパークなど魅力的なオープンスペースの確保に努めます。
- ◆ 身近な公園機能が不足している地区については、空闲地などを利用して、子どもから高齢者まで広く利用できるコミュニティ広場等の整備を推進します。
- ◆ それぞれの公園が有効に活用されるよう、遊歩道などによる各公園のネットワーク化を検討します。

【人々が潤いややすらぎを感じる豊かな自然・良好な景観の形成】

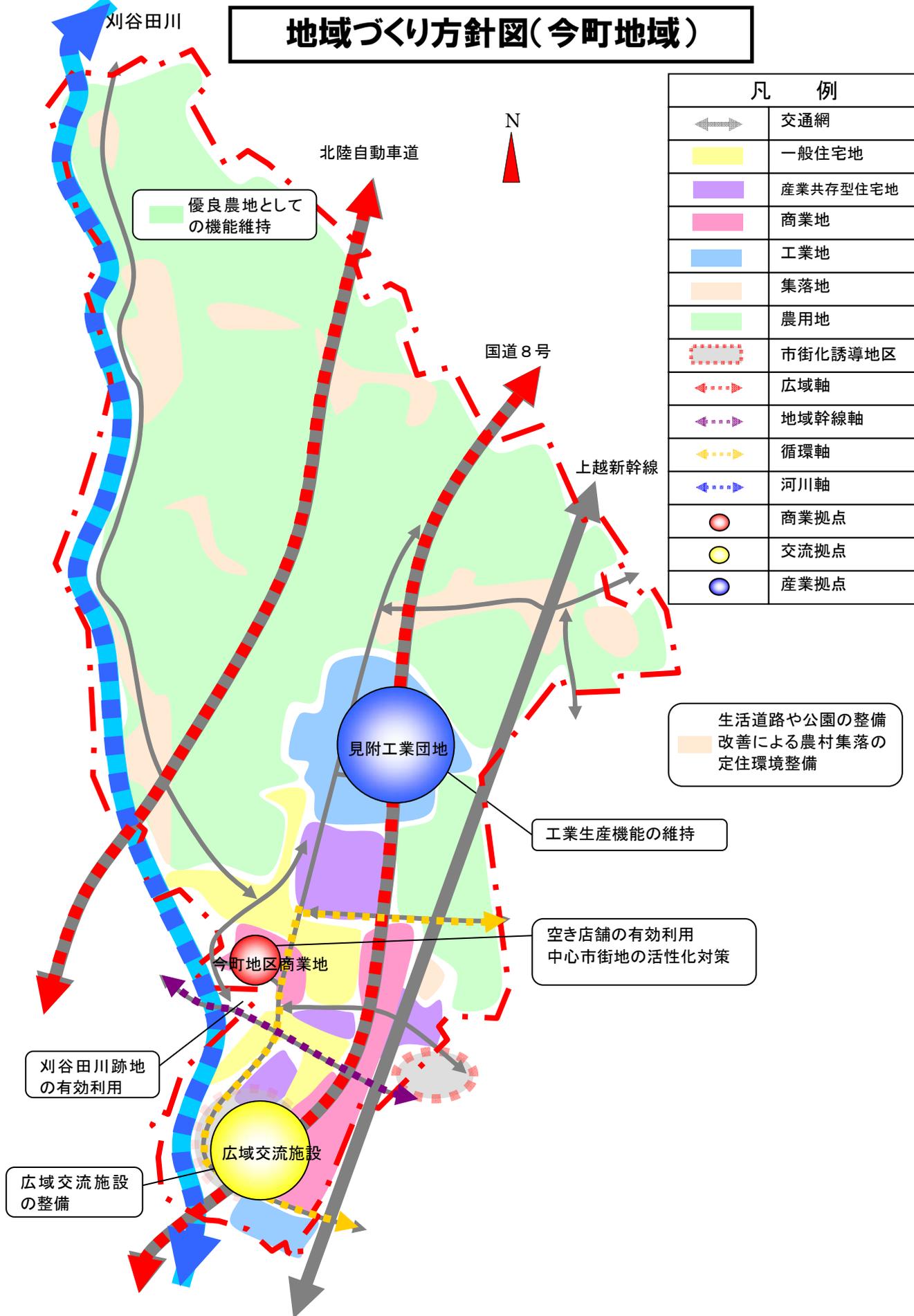
- ◆ 街路樹など市街地の緑化や統一的な景観づくりを推進し、潤いのある都市環境の形成を図ります。
- ◆ 地域の西側を流れる刈谷田川跡地については、水辺の自然的景観を活かした公園緑地や遊歩道の整備を検討します。

④ その他の方針

- ◆ 市街地に隣接するほ場整備事業以外の農用地は、今後も農用地として維持保全を図ることを基本としますが、必要に応じて十分な調整を行いながら計画的かつ段階的に都市的土地利用への転換も検討していくものとします。
- ◆ 地域の神社や伝統行事など、地域の歴史的資源の保存や継承を支援します。

第4章◇地域別構想
(3) 今町地域

地域づくり方針図(今町地域)



地域の方々からの提案（地域別懇談会 ワークショップより）

今町地域の現状・課題

- 商店街が寂れている。
 - 独居老人が多い。
 - 公園、広場が不足している。
 - 公園の維持管理のシステム構築が必要。
 - 農業衰退への懸念、減反や休耕田の有効活用が必要である。
 - 地域のコミュニケーションが不足。
 - 地域文化の継承が必要。
- 降雨時の排水が悪い。



地域づくりの取り組み案

河川

- 河川改修跡地は、地消地産が進むような野菜直売所や地元の特産品の販売所を、市外の人達も対象とした道の駅として整備を行い、地区全体の活性化を図る。
- 刈谷田川沿いの堤防上に水辺を楽しみながらウォーキングできる遊歩道整備を推進する。
- 排水路の改修工事を推進し、水害による被害を軽減する。

交通

- 新大橋建設に伴い想定される交通渋滞を解消する補完道路を整備する。
- 既存道路や雁木・通学路の維持管理を徹底し、安心安全な道路空間を確保する。
- コミュニティワゴンを整備し、過度に自家用車に依存しないまちづくりを行う。

公園緑地

- 公園のない地域に子どもが遊べる公園を整備。整備後の管理は地域と行政の協働で行う。

交流

- 上新田地区に大型店舗や映画館・アミューズメント施設を地域交流や防災の拠点となる複合型施設を整備。温泉などの中高年が集まる施設も整備する。
- 農業集落にも孤立を防ぐため拠点となるコミュニティ施設や若者が集まる民間のライブハウスなどの集客施設を整備する。

景観

- 独自の観光・歴史資源を活用しながら歴史を感じる都市としての充実を図るとともに、街並みの景観を改善し、イメージアップを図る。

防災

- 密集住宅地の狭隘道路改善と住宅の不燃化や耐震化を推進するなどの災害対策を行う。

第4章◇地域別構想

(4) 北谷地域

(4) 北谷地域

1) 地域の概況と課題

【位置・土地利用】

- ・ 市域の南部に位置するこの地域は、東西に流れる刈谷田川を挟んで見附市街地と隣接します。
- ・ 北側の一部が市街化区域で、それ以外は市街化調整区域に指定されています。
- ・ 平野地は優良な田園が広がり、東側の丘陵地は森林地域となっています。

【人口・世帯の動向】

- ・ 地域の人口は緩やかに減少していますが、世帯数は増加傾向にあります。市街地では新興住宅地が開発された緑町などの一部で人口が増加していますが、全体的には緩やかな減少傾向にあります。
- ・ 集落地では市街地以上に人口の減少が進んでいます。
- ・ 地域人口の年齢構成は、新興住宅地の人口増加の影響もあり、年少人口（15歳未満）の比率は市の平均よりも高くなっていますが、老年人口（65歳以上）の比率も高く高齢化が進んでいます。

【都市整備】

- ・ 栃尾鉄道跡地は自転車道路などの有効活用が望まれます。
- ・ 市街化区域内に残る未開発の土地については、基盤整備の整った優良な住宅地等の開発を誘導していく必要があります。

【都市施設・交通】

- ・ 北谷地域の主要道路は主要地方道長岡見附三条線、一般県道栃尾田井線、一般県道長岡見附線等が整備され、見附市街地や隣接市へのスムーズなアクセスが可能になっています。
- ・ 都市計画道路見附下新町線の瑞祥橋の架け替え整備については、早期実施に向け、促進を図る必要があります。
- ・ 地域の主な公共交通は路線バスで、見附市街地や隣接市へアクセスしています。また、市街化区域内はコミュニティバスが見附市街地や今町市街地への足として運行しています。
- ・ 市街地内への通過交通の流入防止や市街地相互の交通アクセスの向上を図るため、新たな幹線道路の整備が進められています。
- ・ 南部の集落地は、農業集落排水事業による下水整備が完了していますが、その他の集落地で一部未整備になっている地区については下水道整備の推進が必要です。

【自然環境・緑地景観】

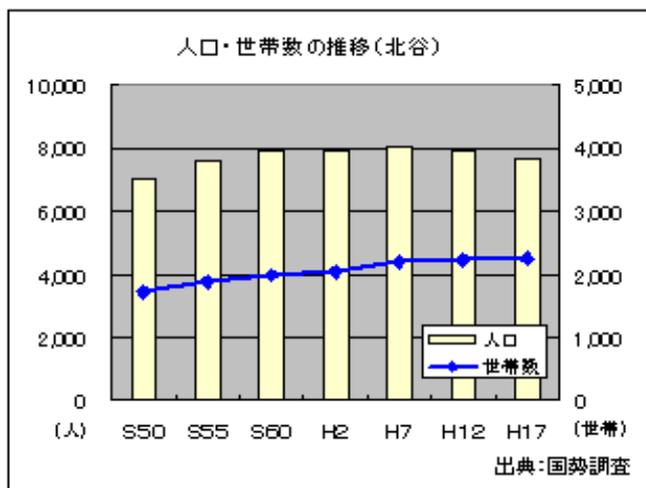
- ・ 平野地にはほ場整備された優良農地が広がっており、今後も保全が必要です。
- ・ 森林地域は今後も保全するとともに、有効に活用していく必要があります。

【その他】

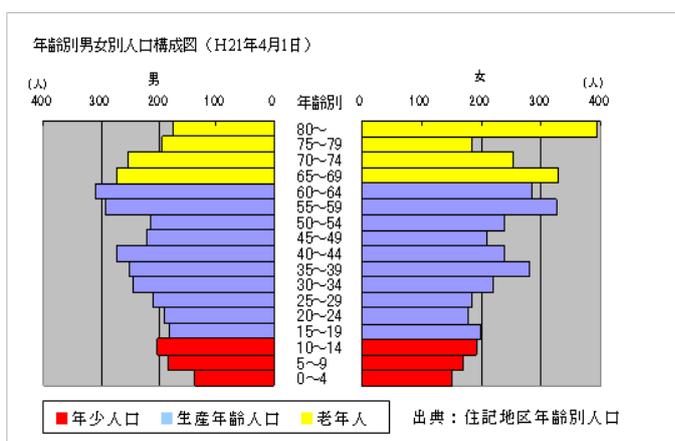
- ・ 市街化区域内に総合スポーツセンターがあり、見附市総合体育館や市民プールなど、運動施設が充実しています。
- ・ 耳取地区には縄文中期の土器が出土する耳取遺跡をはじめ、小丹生神社や椿澤寺など歴史文化資源が点在しています。
- ・ 刈谷田川の河川空間については、有効に利用していく必要があります。



第4章◇地域別構想 (4) 北谷地域



見附市総合体育館



地域の人口構成比率	市全体	北谷地域
老年人口 (65歳以上)	25.3%	26.2%
生産年齢人口 (15歳~65歳未満)	62.0%	60.5%
年少人口 (15歳未満)	12.7%	13.3%

見附まちづくり市民アンケート結果 (まちづくりに関する設問: 上位3位まで)

H18年実施

設問	1位	2位	3位
地域を良好な住宅地にしていくために重要な取組み	美しい街並みとなるような景観への取組み 31.3%	空き家や空き店舗などへの対策 21.3%	区画整理や再開発事業による計画的なまちづくり 20.0%
概ね10~20年後、どのような地域になれば良いと思うか。	防災・防犯性に優れた安心・安全なまち 45.0%	豊かな自然環境や田園環境等に恵まれたのどかなまち 28.8%	身近な生活基盤(生活道路や子供の遊び場等)が整ったまち 27.5%
道路・交通等で特に重点的に取り組むべきもの	歩道を整備・拡幅したり、段差をなくす 27.5%	家のまわりの身近な生活道路を整備・拡幅する 16.3%	歩行者専用道路や自転車道路を整備する 11.3%
公園や緑地の整備等で特に重点的に取り組むべきもの	災害時に避難地や救援拠点として活用できる公園や広場づくり 27.5%	日常の子供の遊び場となる小さな公園や緑地づくり 17.5%	休日に家族で過ごせる大きめの公園や緑地・広場づくり 13.8%
防災・防犯対策で、特に重点的に取り組むべきもの	犯罪防止に配慮した公共施設や街路灯の整備 21.3%	避難場所・避難路・緊急輸送道路の整備やライフライン施設の機能確保 18.8%	下水道整備など大雨による浸水被害に対する対策 17.5% 河川の氾濫などに対する水害対策 17.5%
自然環境や美しい街並みの景観のために重要な取組み	山や丘陵、水辺等の自然景観を残す 17.5% 田畑等・農地を残し田園的風景を守っていく 17.5%		電柱を無くし、街路樹を整備するなど道路をすっきりきれいにする 16.3%

地域概況図(北谷地域)



凡 例	
↔	交通網
●	公共施設
●	歴史文化財
■	一般住宅地
■	産業共存型住宅地
■	集落地
■	農用地
■	丘陵地
⬅⋯⋯➡	自転車道路

2) 地域将来像

① 目指す将来像

北谷地域の市街地では、引き続き良好な居住空間の維持保全を図るほか、優良な住宅地開発の誘導や見附地域等へのアクセスを強化するなど、安全で住み良い地域づくりを目指します。

集落地では、優良な農用地や豊かな自然環境を保全し、かつ有効に活用して地域の活性化を図るほか、下水道未整備地域などの整備を促進し、居住環境の改善を目指します。



■まちづくり目標

- ・防犯防災機能の高い安全で快適なまちづくり
- ・豊かな自然、美しい田園風景に囲まれた住み良いまちづくり
- ・地域の特性や資源を活かして交流するまちづくり

② 地域における拠点・都市軸

北谷地域では以下の都市軸を配置します。

【北谷地域の都市軸】

地域幹線軸: 見附市街地や近隣市と地域を結ぶ地域幹線道路(主要地方道など)

循環軸: 市街地の各拠点をつなぐ主要な道路網(都市計画道路など)

河川軸: 地域間をネットワークする主要な河川(一級河川刈谷田川)

3) 地域づくりの方針

① 土地利用の方針

【住み続けたい居住空間の形成】

- ◆ 市街化区域の住宅地では、生活道路の整備改善や下水道への接続を促進します。また、瑞祥橋や自転車道路等の整備による見附市街地などへのアクセス強化により、住環境の向上を目指します。
- ◆ 集落地では、生活道路や身近な公園等の整備改善、下水道への接続促進など生活基盤施設の整備を図るほか、公共交通などによる市街地とのアクセス強化を図り、住環境の向上を目指します。
- ◆ 開発にあたっては環境悪化の可能性のある開発を抑制するなど、周辺環境や景観に配慮し、既存の集落環境と調和した秩序ある土地利用を誘導します。

第4章◇地域別構想

(4) 北谷地域

【安全で安心して生活できる空間の形成】

- ◆ 冬期間における安全快適な生活を確保するため、地域の協力を得ながら堆雪スペースの確保を図ります。
- ◆ 住宅の耐震化の誘導を図るほか、避難拠点の耐震整備などにより災害に強いまちを目指します。
- ◆ 集中豪雨等の水害対策として、遊水地や排水施設が有効に機能するよう維持・管理し、水害に強いまちづくりを進めます。

【地域を支える産業空間の形成】

- ◆ 市街地の南側一体に広がるほ場整備された農用地は、今後も優良な農業生産基盤として積極的な保全を図ります。

② 交通体系の方針

【安全な歩行者空間の形成】

- ◆ 交通量の多い道路や交差点では、学童をはじめ歩行者が安全に通行できるよう、横断施設や歩道の整備を推進します。
- ◆ 高齢者や障害者が安全・安心して通行できるよう、歩道の段差解消や点字ブロックの整備など、バリアフリー化を推進します。
- ◆ 防犯灯の維持・改善などにより、夜間の安全な歩行空間の確保に努めます。
- ◆ 冬期間における歩行者の安全な移動を確保するため、通学路や主要な公共施設周辺の道路、交通量の多い幹線道路等は、的確な歩道除雪により交通機能の維持を図ります。

【都市計画道路整備の推進】

- ◆ 交通量が増加傾向にある県道長岡見附線については、円滑な交通の確保や安全な歩行空間を確保するため、瑞祥橋の架け替え整備や道路の維持・改善を図ります。
- ◆ 長期未着手の都市計画道路は、緊急度や重要度を整理し、整備・見直し等の検討を行います。

【公共交通によるネットワークの形成】

- ◆ 路線バス等とコミュニティバス、デマンド型地域交通等の連携により、公共交通の円滑な乗り継ぎ環境の整備を進め、利便性が高い公共交通のネットワークづくりを目指します。
- ◆ 集落地では、デマンド型地域交通などによる高齢者等の地域交通の確保について検討します。

【地域実態に見合った交通体系の検討】

- ◆ 環境への負荷がより少なく、健康づくりに効果が高い自転車利用の促進に向けた取り組みを強化し、栃尾鉄道跡地などの土地を有効活用した自転車道や自転車レーン等のネットワーク化をすすめます。
- ◆ 多雪地域の冬期の交通安全の確保など、地域生活に支障を与えている状況に応じて改善を図ります。
- ◆ 地域生活に支障を与えている行き止まり道路や幅員が狭い道路の改善等について検討します。

③公園緑地・都市景観の方針

【人々が憩い、ふれあいのあふれる公園緑地の形成】

- ◆ たくさんの人たちが暮らす住宅地では、多様な交流空間としてポケットパークなどの整備を推進します。
- ◆ 刈谷田川の良好な自然景観を保全しながら、防災機能の向上を進めます。また地域の安らぎの場として、河川空間を活かした親水公園や散策路利用など、公園緑地の整備について検討します。
- ◆ 身近な公園が不足する地区については、空地地などを利用して、子どもから高齢者まで広く利用できるコミュニティ広場等の整備を推進します。
- ◆ それぞれの公園が有効に活用されるよう、遊歩道などによる各公園のネットワーク化を検討します。

【人々が潤いややすらぎを感じる豊かな自然・良好な景観の形成】

- ◆ 丘陵地については、森林の維持・保全を図るとともに、レクリエーション利用など有効活用を検討します。

④ その他の方針

- ◆ 地域の歴史文化の保全・継承と歴史的資源を有効に活かした活性化策について検討します。
- ◆ 遺跡包含地である耳取山周辺については、無秩序な開発を防止し、文化遺産の保全を図るとともに、これらを活かした活性化策などについて検討します。
- ◆ 市街地に隣接するほ場整備事業以外の農用地は、今後も農用地として維持保全を図ることを基本としますが、必要に応じて十分な調整を行いながら計画的かつ段階的に都市的土地利用への転換も検討していくものとします。



栃尾鉄道跡地の有効活用（自転車道路利用）



おにふ
小丹生神社

第4章◇地域別構想
 (4) 北谷地域

地域づくり方針図(北谷地域)

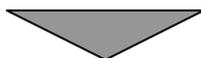


凡 例	
⇄	交通網
●	歴史文化財
■ (yellow)	一般住宅地
■ (orange)	集落地
■ (purple)	産業共存型住宅地
■ (light green)	農用地
■ (dark green)	丘陵地
⇄ (purple dashed)	地域幹線軸
⇄ (yellow dashed)	循環軸
⇄ (blue dashed)	河川軸
⇄ (green dashed)	自転車道路

地域の方々からの提案（地域別懇談会 ワークショップより）

北谷地域の現状・課題

- 兼業農家が多く、高齢化や後継者不足のため、優良な農村地帯の良さを活かすことができない。
- 店舗はコンビニエンスストアのみ。材木屋や鉄工所もなくなり、地域に特色のある産業がない。養鶏場や特別養護老人施設などはある。
- 地域によって道路が狭く、車いす対応の車や緊急車両が入れないところがある。
- 耳取遺跡や小丹生神社などの文化財に対して市全体の認識が不足している。
- 耳取山の周辺の産廃投棄問題など、環境保全に対する意識不足している。
- 盆踊り保存会など伝統行事や運動会への若い世代の参加が少なくなっている。
- 交番が少なく、住民の防犯対策が必要である。
- 歩道整備が遅れていて通学路が危険である。
- 地域全体の憩いの場や子供が遊べる公園がない。
- 栃窪地域には昔ながらの風景が残る。



地域づくりの取り組み案

定住人口

- 市街化調整区域の椿沢町、田井町での定住促進のための対策を検討する。

交通

- 交通量が急激に増えた県道長岡見附線の危険箇所信号を増設する。
- サイクリングロードの防犯灯の整備、夜の歩行者空間の安全を確保する。
- 通学路・生活道路など自転車道・歩道の整備を推進する。

公園緑地

- 耳取山頂上平坦地での公園整備、交流・観光資源としての活用、協働型環境対策を推進する。
- 遊歩道とネットワーク化した周回コース（耳取山～ふれあい橋間にベンチ付き遊歩道整備、サイクリングロードの田井町までの延長）を整備する。
- 地域の遺跡・神社等と連携した住民全体の憩いの場を整備する。椿沢温泉を復活させる。
- 緑町、双葉町の越後交通跡地を遊歩道などに有効活用する。
- 刈谷田川堤防を活用して水辺を楽しめる遊歩道を整備する。

防災防犯

- 密集住宅地での緊急車両が通行可能な道路改善、住宅不燃化・耐震化、避難広場などを整備する。
- 風紀を維持するための町内自治組織を新たに編成する。

持続

- 伝統行事や文化の行政地域協働による保存やPRを行う。若者の参加を促進する。
- 地域のコミュニティ施設と地場産の農産物直売所を兼ねた施設を整備する。



(5) 葛巻地域

1) 地域の概況と課題

【位置・土地利用】

- ・ 市域の西部に位置するこの地域は、全域が平野地で、見附市街地の一部区域や見附テクノ・ガーデンシティ（中部産業団地）などを含み、それ以外は農業振興地域です。
- ・ 市街化区域は、中央部に大規模な見附テクノ・ガーデンシティ（中部産業団地）が造成されたほか、南部には大規模なガス供給施設や下水処理施設と言った工業利用が図られ、その他は商住が混在する利便性の高い地域です。
- ・ 見附テクノ・ガーデンシティ（中部産業団地）と住宅地に挟まれ、ほ場整備区域に含まれない農地については、将来的に市街化を誘導する区域として計画的な土地利用を推進し、見附地区と今町地区の市街地の一体化を図る必要があります。
- ・ 市街化区域内で市街化が進まない一団の土地については、今後市街化の促進が必要です。



【人口・世帯の動向】

- ・ 人口・世帯数ともに増加傾向にあり、特に見附地域に隣接する地区や見附駅西口周辺の市街地では、住宅開発が進んで人口が増加しています。
- ・ 集落地では、世帯数はほぼ横ばい、人口は緩やかな減少傾向にあります。
- ・ 地域人口の年齢構成は、新興住宅地の人口増加の影響で、他地域と比べて年少人口（15歳未満）の比率が高く、老年人口（65歳以上）の比率は市の平均より低い状況にあります。

【都市整備】

- ・ 市街化区域内で、今後市街化が進む一団の土地や将来市街化が見込まれる地区については、地区計画などにより優良な住宅地等の開発を誘導していく必要があります。
- ・ 見附テクノ・ガーデンシティ（中部産業団地）は、引き続き優良企業の立地が促進されるように地区計画を策定し、産業地として良好な土地利用を進める必要があります。

【都市施設・交通】

- ・ 既定都市計画道路の整備促進や新たな幹線道路の整備により、国道8号及び北陸自動車道ICへのアクセスの向上を図る必要があります。
- ・ みつけイングリッシュガーデンは、今後も市民の憩いの場として、維持保全や利用の促進を図ります。
- ・ 集落地では下水道（浄化槽）や公園等の整備により住環境の向上を図ることが重要です。

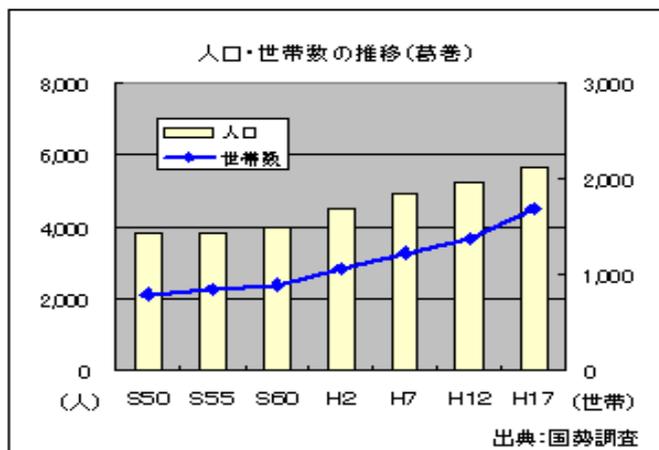
【自然環境・緑地景観】

- ・ ほ場整備の実施地域など、優良な農地は今後も保全を図る必要があります。
- ・ 市街地内における緑化の推進が必要です。
- ・ 刈谷田川の河川空間については、有効に利用していく必要があります。

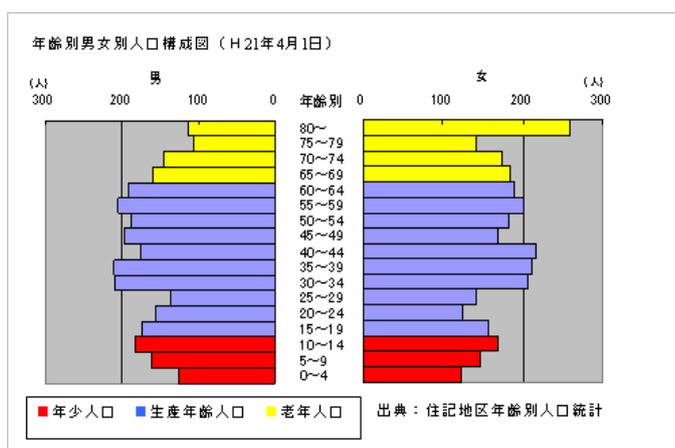
【その他】

- ・ 市内でも先駆けて地域コミュニティづくりを立ち上げ、積極的に地区のまちづくりを進めています。

第4章◇地域別構想 (5) 葛巻地域



見附市役所、文化ホール



地域の人口構成比率		
	市全体	葛巻地域
老年人口 (65歳以上)	25.3%	21.9%
生産年齢人口 (15歳~65歳未満)	62.0%	62.5%
年少人口 (15歳未満)	12.7%	15.6%

見附まちづくり市民アンケート結果 (まちづくりに関する設問: 上位3位まで)

H18年実施

設問	1位	2位	3位
地域を良好な住宅地にしたいために重要な取組み	美しい街並みとなるような景観への取組み 34.7%	区画整理や再開発事業による計画的なまちづくり 25.0%	空き家や空き店舗などへの対策 22.2%
概ね10~20年後、どのような地域になれば良いと思うか。	防災・防犯性に優れた安心・安全なまち 41.7%	豊かな自然環境や田園環境等に恵まれたのどかなまち 26.4% 身近な生活基盤(生活道路や子供の遊び場等)が整ったまち 26.4%	
道路・交通等で特に重点的に取り組むべきもの	歩道を整備・拡幅したり、段差をなくす 23.6%	歩行者専用道路や自転車道路を整備する 20.8%	家のまわりの身近な生活道路を整備・拡幅する 16.7%
公園や緑地の整備等で特に重点的に取り組むべきもの	災害時に避難地や救援拠点として活用できる公園や広場づくり 20.8%	休日に家族で過ごせる大きめの公園や緑地・広場づくり 18.1%	日常の子供の遊び場となる小さな公園や緑地づくり 15.3%
防災・防犯対策で、特に重点的に取り組むべきもの	犯罪防止に配慮した公共施設や街路灯の整備 31.9%	避難場所・避難路・緊急輸送道路の整備やライフライン施設の機能確保 22.2%	河川の氾濫などに対する水害対策 15.3%
自然環境や美しい街並みの景観のために重要な取組み	田畑等・農地を残し田園的風景を守っていく 26.4%	電柱を無くし、街路樹を整備するなど道路をすっきりきれにする 15.3%	シンボリックな建物などを建てて、新しい景観づくりをする 9.7% 屋外広告物を規制して、道路沿いの景観をきれいにする 9.7%

地域概況図(葛巻地域)



2) 地域将来像

① 目指す将来像

今町地域と見附地域の2つの市街地に隣接するこの地域は、国道やJR等の交通網に恵まれており、地域内には行政施設の集積地やみつけイングリッシュガーデン、見附テクノ・ガーデンシティ（中部産業団地）が整備されるなど、利便性が高く魅力ある職住環境が整っています。このことから、これらの優位性を活かして快適で安全に暮らせる地域を目指します。

また市内でもっとも早く地域コミュニティ組織化に取り組むなど、まちづくりに対する地域の意識が高いことから、地域主導のまちづくりの推進に向けた環境整備を目指します。

集落地では優良な農用地や豊かな自然環境を保全し、かつ有効に活用して地域の活性化を図るほか、住環境の改善を目指します。



■まちづくり目標

- ・利便性が高く魅力ある職住環境が整った安全で快適に暮らせるまちづくり
- ・みつけイングリッシュガーデン、見附テクノ・ガーデンシティによる魅力的で活気がある産業地づくり
- ・地域主導によるまちづくりの推進

② 地域における拠点・都市軸

葛巻地域では以下の拠点、都市軸を配置します。

【葛巻地域の拠点】

地域交流地区：市野坪町の商店が集積する地区

産業拠点：見附テクノ・ガーデンシティ、葛巻地区工業地

行政地区：市役所、消防署、文化ホールなど公共公益施設が集積する地区

公園・緑地：みつけイングリッシュガーデン

【葛巻地域の都市軸】

地域幹線軸：市街地や近隣市と地域を結ぶ地域幹線道路（主要地方道など）

循環軸：市街地の各拠点をつなぐ主要な道路網（都市計画道路など）

河川軸：地域間をネットワークする主要な河川（一級河川刈谷田川）

3) 地域づくりの方針

① 土地利用の方針

【住み続けたくなる居住空間の形成】

- ◆ 住宅地は地区計画の遵守など、今後も良好な住環境の維持・整備を図ります。
- ◆ 市野坪町等、市街化区域内で今後開発が進められる一団の土地については、地区計画等により公園緑地や下水道等の都市基盤施設が整備された良好な住環境の整備を誘導します。
- ◆ 医療施設が集積し、良好な住宅地が整備されているJR見附駅西口の地区では、今後も地区計画の遵守などにより良好な居住空間の維持・整備を図ります。
- ◆ 集落地では、生活道路や身近な公園等の整備改善、下水道（浄化槽）への接続促進など生活基盤施設の整備を図るほか、公共交通などによる市街地とのアクセス強化を図り、住環境の向上を目指します。

【活気ある交流の場・快適な商業空間の形成】

- ◆ 昭和町の市役所や文化ホール、市民交流センターなども含めた行政施設が集積する地区は、人々が交流する魅力ある空間として、緑化やオープンスペース等の確保等に努め、交流の促進や多様な情報発信等による賑わいの創出を図ります。
- ◆ 市野坪町地区の大型店舗や飲食店が集積する地区は、交通利便性に優れた地域の交流拠点でもあるので、今後も引き続き地区計画による用途の純化や緑化の推進による景観の向上等を推進します。
- ◆ 地域の課題解決や自発的な地域づくりなど、コミュニティ活動を推進するため、コミュニティセンターなど、地域活動の拠点整備について検討します。

【安全で安心して生活できる空間の形成】

- ◆ 住宅の耐震化の誘導を図るほか、避難拠点の耐震整備などにより災害に強いまちを目指します。
- ◆ 冬期間における安全快適な生活を確保するため、地域の協力を得ながら堆雪スペースの確保を図ります。
- ◆ 集中豪雨等による市街地の浸水を防ぐため、地域の雨水対策について検討します。

【地域を支える産業空間の形成】

- ◆ 複合機能を有する拠点的産業地として位置づけられる見附テクノ・ガーデンシティー（中部産業団地）には、今後も新たな高度技術産業や中越地域に蓄積された伝統的地場産業などの集積を推進します。
- ◆ 刈谷田川に面する地域南部の工業地については、今後の社会情勢を見極めながら、有効な土地利用を誘導していきます。
- ◆ ほ場整備事業により整備された農用地については、今後も優良な農業生産基盤として積極的な保全を図ります。

② 交通体系の方針

【安全な歩行者空間の形成】

- ◆ 交通量の多い道路や交差点では、学童をはじめ歩行者が安全に通行できるよう、横断施設や歩道の整備を推進します。

- ◆ 高齢者や障害者が安全・安心して通行できるよう、歩道の段差解消や点字ブロックの整備など、バリアフリー化を推進します。
- ◆ 防犯灯の維持・改善などにより、夜間の安全な歩行空間の確保に努めます。

【都市計画道路の整備推進】

- ◆ 長期未着手の都市計画道路は、緊急度や重要度を整理し、整備・見直し等の検討を行います。

【公共交通によるネットワークの形成】

- ◆ JRや路線バス等とコミュニティバス、デマンド型地域交通等の連携により、公共交通の円滑な乗り継ぎ環境の整備を進め、利便性が高い公共交通のネットワークづくりを目指します。
- ◆ 集落地では、デマンド型地域交通などによる高齢者等の地域交通について検討します。

【地域実態に見合った交通体系の検討】

- ◆ 市街地の散策や観光、近隣への買い物等について、環境への負荷がより少なく、健康づくりに効果が高い自転車利用の促進に向けた取り組みを強化し、自転車道や自転車レーン等のネットワーク化をすすめます。
- ◆ 地域生活に支障を与えている行き止まり道路や幅員が狭い道路の改善等について検討します。

③公園緑地・都市景観の方針

【人々が憩い、ふれあいのあふれる公園緑地の形成】

- ◆ みつけイングリッシュガーデンでは、市民との協働により、四季折々の花木による緑化を推進します。
- ◆ 柳千公園では、地域住民と協働で自然あふれる公園緑地の整備を推進します。
- ◆ 身近な公園が不足する地区では、子どもから高齢者まで広く利用できるよう空地などによるコミュニティ広場など、公園緑地の整備を検討します。

【人々が潤いややすらぎを感じる豊かな自然・良好な景観の形成】

- ◆ 貝喰川沿いの遊歩道は、水辺の自然的景観を活かした潤いのある空間として維持・改善を図ります。
- ◆ 街路樹など市街地の緑化や統一的な景観づくりを推進し、潤いのある都市環境の形成を図ります。

④ その他の方針

- ◆ 地域の歴史文化の保全・継承と歴史資源を活かした観光拠点づくりなど、地域の活性化策について検討します。
- ◆ 市街地に隣接するほ場整備事業以外の農用地は、今後も農用地として維持保全を図ることを基本としますが、必要に応じて十分な調整を行いながら計画的かつ段階的に都市的土地利用への転換も検討していくものとします。

地域の方々からの提案（地域別懇談会 ワークショップより）

葛巻地域の現状・課題

- 公園、広場の不足（防災面、コミュニティ面）。
- 開発に対する行政による的確な指導、誘導。
- 農業衰退の懸念、減反や休耕田の有効活用、盆踊りなど地域コミュニティの継続発展。
- 自然環境や歴史資料などの保存、継承。
- 空き家対策、見附のPR不足。
- 葛巻地区コミュニティ協議会の充実。

地域づくりの取り組み案

交通

- JR見附駅と地域間のバス等公共交通用アクセス道路の整備。

公園緑地

- 多様な世代が歩いて集まり交流できるような小規模な公園の整備。
- 神社境内の子ども遊び場、地域行事の拠点としての町内会による維持管理の推進。
- 地域住民による身近な公園の機能改善方策検討と維持管理の推進。既存公園再整備。
- 葛巻のほぼ中心である葛巻小学校周辺におけるシンボル公園の整備。
- 産業団地から柳橋にかけての水路沿いの遊歩道整備。
- 刈谷田川堤防上での水辺を楽しみながらウォーキングできる遊歩道整備。

集落活性化

- 集落地での住民合意による小規模区画数の住宅地開発許容と居住人口の維持。
- 都市住民が、農業体験し、地元農家等にホームステイできるような仕組みづくり。
- 都市住民が、未利用農地等で地元農家指導により農体験や耕作できる仕組みづくり。

既存資源活用

- 不耕作地での景観向上、都市交流、教育など、市・所有者・市民協議による有効活用。
- 見附テクノ・ガーデンシティー（中部産業団地）での稲ワラ、もみ殻等を活用したバイオマス関連研究施設の誘致促進。
- 空き家を改装による多様な世代が気兼ねなく集まれる交流空間（地域の茶の間）整備。
- 空き家を有効活用のための「所有者」と「使い手」のマッチングの仕組みづくり。
（空き家情報のデータベース化、空き家情報の発信など）
- 見附盆踊り保存会の活動支援、盆踊りで健全かつ活力あるコミュニティづくり。



(6) 新潟地域

1) 地域の概況と課題

【位置・土地利用】

- ・ 市域の北部に位置するこの地域は、今町市街地の東側、見附市街地の北側に隣接し、東側の一部丘陵地部を除きほとんどが平野地です。
- ・ J R 見附駅西口周辺の千刈町等の一部が市街化区域ですが、それ以外は全て市街化調整区域に指定されており、東側の森林地部を除くほとんどが、農業振興地域で優良な水田が広がっています。

【人口・世帯の動向】

- ・ 地域の人口・世帯数は、芝野町の地区変更もあり、大幅に減少していますが、市街化区域の住宅地は人口・世帯数とも増加傾向にあります。集落地は、世帯数がほぼ横ばいで、人口は緩やかに減少しています。
- ・ 地域人口の年齢構成は、老年人口（65歳以上）の比率が市の平均を若干下回っていますが、新たに人口が増加した市街地に比べ、集落地では高齢化が進み、農業等の後継者不足が心配されます。

【都市整備】

- ・ 将来市街化が見込まれる地区については、地区計画等の策定や面整備事業の導入などにより、良好な市街地の形成を図る必要があります。

【都市施設・交通】

- ・ 新潟地域は、主要地方道長岡見附三条線が地域を縦断し、見附市街地や隣接市へのスムーズなアクセスが可能です。
- ・ J R 見附駅西口に近い市街化区域は J R や路線バス等の公共交通が運行されていますが、集落地では路線バス等の公共交通が無く、地域の公共交通について検討が必要です。
- ・ 市街地の通過交通の排除と集落地の利便性向上のため、国道8号と主要地方道長岡見附三条線を結ぶ主要道路などの維持改善を図る必要があります。
- ・ 集落地では下水道（浄化槽）や公園などの生活基盤の整備改善が必要です。

【自然環境・緑地景観】

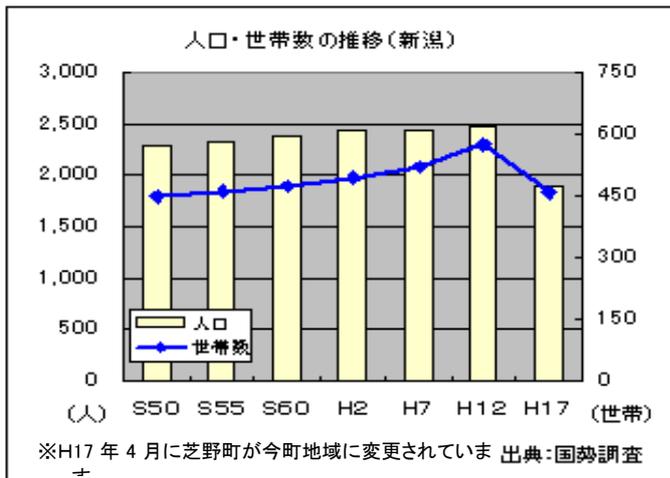
- ・ 平野地にはほぼ整備された優良農地が広がっており、今後も保全が必要です。
- ・ 東側に連なる森林地部は、土砂採取による治水能力の低下や景観の悪化などに対し、今後も配慮する必要があります。

【その他】

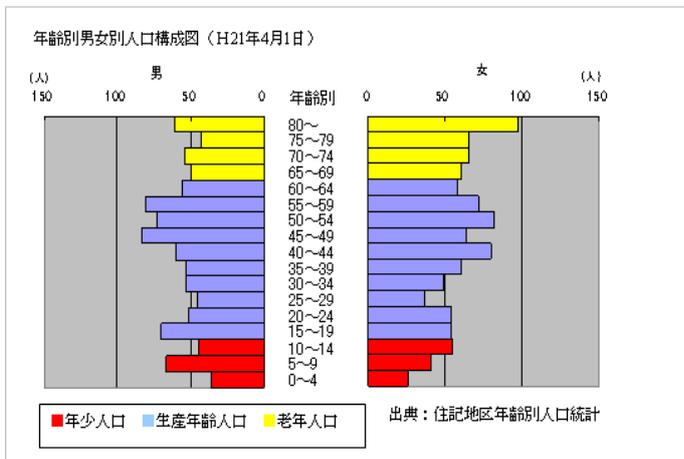
- ・ 小栗山不動院、山崎A遺跡など、歴史的文化財が点在しています。
- ・ 見附市無形文化財指定の小栗山獅子舞など伝統文化が継承されていますが、後継者が不足しています。



第4章◇地域別構想
(6) 新潟地域



小栗山獅子舞



地域の人口構成比率		
	市全体	新潟地域
老年人口 (65歳以上)	25.3%	24.8%
生産年齢人口 (15歳~65歳未満)	62.0%	61.7%
年少人口 (15歳未満)	12.7%	13.5%

見附まちづくり市民アンケート結果 (まちづくりに関する設問: 上位3位まで) H18年実施

設問	1位	2位	3位
地域を良好な住宅地にしていくために重要な取組み	美しい街並みとなるような景観への取組み 38.9%	区画整理や再開発事業による計画的なまちづくり 27.8%	自動車騒音等公害対策 22.2%
概ね10~20年後、どのような地域になれば良いと思うか。	豊かな自然環境や田園環境等に恵まれたのどかなまち 38.9%	身近な生活基盤(生活道路や子供の遊び場等)が整ったまち(33.3%) 鉄道やバスなどの公共交通の便がよいまち 33.3%	
道路・交通等で特に重点的に取り組むべきもの	歩行者専用道路や自転車道路を整備する 44.4%	歩道を整備・拡幅したり、段差をなくす 11.1% 家のまわりの身近な生活道路を整備・拡幅する 11.1% 広域的な幹線道路を整備する 11.1% バスなど公共交通で中心市街地へ行きやすくする 11.1%	
公園や緑地の整備等で特に重点的に取り組むべきもの	日常の子供の遊び場となる小さな公園や緑地づくり 33.3%	農地や休耕地を緑地として保全・活用する 16.7%	河川や道路の街路樹による水と緑の回廊づくり 11.1% 公共公益施設の緑化の推進 11.1%
防災・防犯対策で、特に重点的に取り組むべきもの	犯罪防止に配慮した公共施設や街路灯の整備 50.0%	避難場所・避難路・緊急輸送道路の整備やライフライン施設の機能確保 22.2%	建物の耐震性向上や不燃化の促進 11.1% 下水道整備など大雨による浸水被害に対する対策 11.1%
自然環境や美しい街並みの景観のために重要な取組み	田畑等・農地を残し田園的風景を守っていく 38.9%	山や丘陵、水辺等の自然景観を残す 16.7% 電柱を無くし、街路樹を整備するなど道路をすっきりきれいにする 16.7%	

地域概況図(新潟地域)



主要地方道長岡見附三条線

凡 例	
↔	交通網
●	公共施設
●	歴史文化財
■	一般住宅地
■	集落地
■	農用地
■	丘陵地

2) 地域将来像

① 目指す将来像

JR見附駅西口に近接する一部市街地とその他農村地で形成されるこの地域は、国道やJRへアクセスしやすいという地理的優位性を活かし、市街地では今後も地区計画などにより、景観に配慮した良好な居住空間の整備・誘導を目指します。

優良な農用地や豊かな自然環境に囲まれた集落地では、自然景観の維持・保全を図るほか、地域の特性や資源を活かして活性化を図り、安全で住み良い地域として整備を推進します。



■まちづくり目標

- ・防犯防災機能が高く景観の良い住み良い都市づくり
- ・歴史や文化を活かした活気あるまちづくり
- ・田園風景や自然環境の保全・共存し、活かすまちづくり

② 地域における拠点・都市軸

新潟地域では以下の拠点、都市軸を配置します。

【新潟地域の都市軸】

地域幹線軸：市街地や近隣市と地域を結ぶ地域幹線道路(主要地方道など)
循環軸：市街地の各拠点をつなぐ主要な道路網(都市計画道路など)

3) 地域づくりの方針

① 土地利用の方針

【住み続けたい居住空間の形成】

- ◆ JR見附駅、国道8号、医療施設集積地などに近接し、地区計画により良好な住環境が保全されている住宅地では、アクセスの良い利便性を活かしながら、今後も良好な居住環境の保全・誘導を図ります。
- ◆ 緑道整備等によるみつけイングリッシュガーデン等の近隣公園とのネットワーク化を図り、景観やゆとりに配慮した居住空間の整備を推進します。
- ◆ 柳橋地区の市街地に隣接する今後市街化が見込まれる地区では、周辺の優良農地への影響などを配慮したうえで、十分な調整を行いながら計画的に市街化を誘導します。また、地区計画等による良好な住宅地等の都市的土地利用への転換も検討していくものとします。
- ◆ 集落地では、生活道路や身近な公園、下水道(浄化槽)等の基盤施設の整備改善を図るほか、公共交通などによる市街地とのアクセス強化を図り、住環境の向上を目指します。

第4章◇地域別構想

(6) 新潟地域

- ◆ 集落地は、地域の活性化や地域コミュニティの維持に向けた取組みについて検討を進めます。
- ◆ 開発にあたっては環境悪化の可能性がある開発を抑制するなど、周辺環境や景観へ配慮し、既存の集落環境と調和した秩序ある土地利用を誘導します。

【安全で安心して生活できる空間の形成】

- ◆ 冬期間における安全快適な生活を確保するため、地域の協力を得ながら堆雪スペースの確保を行います。
- ◆ 住宅の耐震化の誘導を図るほか、避難拠点の耐震整備などにより災害に強いまちを目指します。

【地域を支える産業空間の形成】

- ◆ ほ場整備事業により整備された水田など優良な農用地については、今後も積極的な保全を図ります。

② 交通体系の方針

【安全な歩行者空間の形成】

- ◆ 主要地方道長岡見附三条線などの交通量の多い道路や通学路等については、歩道の整備や歩道のネットワーク化、横断施設の整備等、安全面に配慮した整備を推進します。
- ◆ 冬期間における歩行者の安全な移動を確保するため、通学路や主要な公共施設周辺の道路、交通量の多い幹線道路などは的確な歩道除雪により交通機能の維持を図ります。
- ◆ 高齢者や障害者が安全・安心して通行できるよう、歩道の段差解消や点字ブロックの整備など、バリアフリー化を推進します。
- ◆ 防犯灯の維持・改善などにより、夜間の安全な歩行空間の確保に努めます。

【公共交通によるネットワークの形成】

- ◆ 路線バス等とコミュニティバス、デマンド型地域交通等の連携などによる公共交通の円滑な乗り継ぎ環境の整備を進め、利便性が高い公共交通のネットワークづくりを目指します。
- ◆ 集落地ではデマンド型地域交通などによる高齢者等の地域交通の確保を図ります。

【地域実態に見合った交通体系の検討】

- ◆ 地域交通の利便性や市街地の渋滞緩和のため、通過交通の分散機能を担う市道今町新潟線の維持改善を推進します。
- ◆ 環境負荷低減、高齢者や子どもの利便性など、地域実態に配慮した地域交通について、地域の意見を聞きながら検討します。
- ◆ 環境への負荷がより少なく、健康づくりに効果が高い自転車利用の促進に向けた取り組みを強化し、自転車レーン等のネットワーク化を検討します。
- ◆ 地域生活に支障を与えている行き止まり道路や幅員が狭い道路の改善等について検討します。

③公園緑地・都市景観の方針

【人々が憩い、ふれあいのあふれる公園緑地の形成】

- ◆ 身近な公園機能が不足している地区については、空閑地などを利用して、子どもから高齢者まで広く利用できるコミュニティ広場等の整備を推進します。
- ◆ それぞれの公園が有効に活用されるよう、遊歩道などによる各公園のネットワーク化を検討します。

【人々が潤いややすらぎを感じる豊かな自然・良好な景観の形成】

- ◆ 街路樹など市街地の緑化や統一的な景観づくりを推進し、潤いのある都市環境の形成を図ります。
- ◆ 地域の東側一体に広がる丘陵地の森林については、今後も積極的な維持・保全を図るとともに、レクリエーション利用など有効活用を検討します。
- ◆ 丘陵地での土砂採取にあたっては、新たな森林伐採を極力防止して良好な自然景観を損なわないようにするとともに、採取跡地については緑地としての機能回復を図るものとします。

④ その他の方針

- ◆ 地域の自然環境や歴史文化的資源について、保全するとともに特色ある資源として観光拠点づくりに活かすなど、地域の活性化策について検討します。
- ◆ 下鳥堤の跡地については、有効な活用方法を検討します。
- ◆ 市街地に隣接するほ場整備事業以外の農用地は、今後も農用地として維持保全を図ることを基本としますが、必要に応じて十分な調整を行いながら計画的かつ段階的に都市的土地利用への転換も検討していくものとします。



貝喰川沿いの緑道



小栗山不動院

地域づくり方針図(新潟地域)

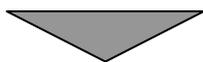


凡 例	
	交通網
	歴史文化財
	一般住宅地
	集落地
	農用地
	丘陵地
	市街化誘導地区
	広域軸
	地域幹線軸
	循環軸

地域の方々からの提案（地域別懇談会 ワークショップより）

新潟地域の現状・課題

- 基幹産業は農業、品質の優れた米の生産地だが、他に特徴となる産業がない。
- 兼業農家が多く後継者不足と米価下落による農業経営不振。
- 店舗や飲食店がない。
- 駅、国道、インターチェンジが近く交通利便性が良い。歩道の整備も進んでいる。
- 中学校が遠く冬期の通学が危険である。
- 丘陵地の土砂採取による景観や排水への悪影響が発生している。
- 小栗山不動院、奉納相撲等数々の伝統文化が存在、文化発信戦略の欠落、後継者不足。
- 観光の名所としては特徴不足、のんびりした田園地帯が大きな魅力。
- 住民のまとまりが良いが、行政区が細かすぎるため、地域自治をまとめるのに苦労している。
- 遊水地の地元管理は困難なため市の協力が必要である。



地域づくりの取り組み案

交通

- コミュニティワゴン整備による過度に自家用車に依存しないまちづくり。
- 創設換地の歩道としての整備、通勤通学路やウォーキングコースとしての活用を進める。
- 歩道外灯設置により夜間の安全な歩行者空間を確保する。

公園緑地

- 公園のない地域での子どもが遊べる公園整備、地域と行政の協働による管理。

水環境

- 集落地における下水道整備の推進。
- 白銀町と小栗山町間のため池の調整池としての保全。排水路整備と合わせた治水対策の推進。
- 開発に伴うほ場減少による水対策。

自然保全

- 丘陵地等でのホテル再生事業に伴う施設整備の推進。
- クマ、タヌキ等と共生できる自然環境の保全。

自立持続

- 自立して農業を営める政策形成、直売所や運営組織立ち上げ、地消地産の推進。
- 飲食店誘致のための対策。



(7) 上北谷地域

1) 地域の概況と課題

【位置・土地利用】

- ・ 市域の東南部に位置するこの地域は、東西に流れる刈谷田川や支流の稚児清水川の流域に、集落地と豊富な農作物がとれる優良な農地が広がっています。
- ・ 地域の西側は市街化調整区域で、東側の平野地や飛地を含む山間地は都市計画区域外です。
- ・ 都市計画区域外は、アクセスの悪い山間地が多く、特に開発の可能性が低いと考えられます。

【人口・世帯の動向】

- ・ 今回区分した6地区で、最も人口が少ない地域です。
- ・ 人口・世帯とも減少傾向にあり、地域コミュニティを維持する取り組みが必要です。
- ・ 全市と比較して老年人口（65歳以上）の比率は非常に高く、年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15歳～65歳未満）の比率が低く、少子高齢化が顕著で農業従事者の高齢化や若者の転出等による後継者不足が課題となっています。

【都市整備】

- ・ 主要地方道見附栃尾線沿線の土地は、都市計画区域外も含め今後も適正な土地利用を図る必要があります。
- ・ 地域コミュニティ維持に向けた集落地の活性化策などについて検討が必要です。

【都市施設・交通】

- ・ 主要地方道見附栃尾線が地域を縦断し、市街地にアクセスする主な公共交通は路線バスです。
- ・ 高齢世帯の増加により、地域交通について検討が必要です。
- ・ 市内でも降雪が多い地域で、冬期間の安全な交通環境の維持を図る必要があります。
- ・ 本明町と河野町にコミュニティ広場が整備されています。

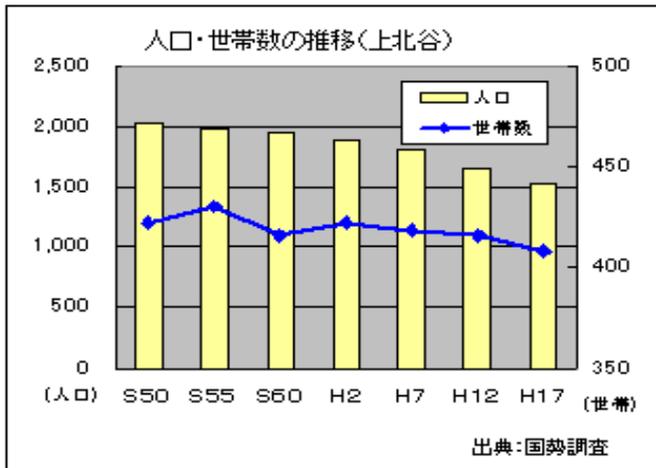
【自然環境・緑地景観】

- ・ 東部及び東南部は豊かな森林が広がり、今後も機能の保全を図る必要があります。
- ・ 優良農地は、地域の重要な産業基盤として保全・整備を図る必要があります。
- ・ 刈谷田川の河川空間については有効に利用していく必要があります。

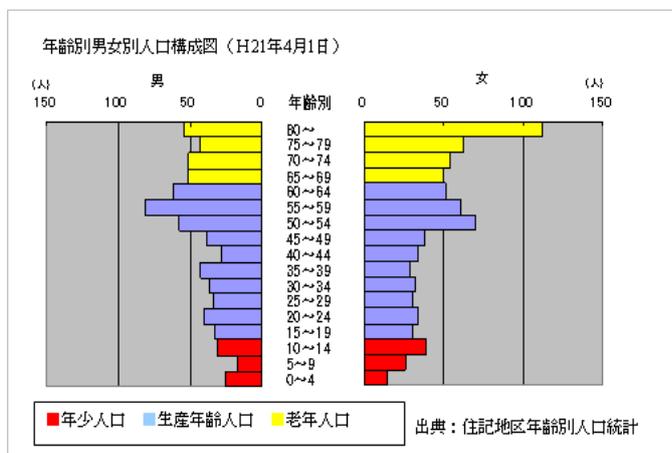


地域特性を活かした採種ほ場

第4章◇地域別構想
(7) 上北谷地域



冬期間などの交通安全が課題



地域の人口構成比率	市全体	上北谷地域
老年人口 (65歳以上)	25.3%	32.0%
生産年齢人口 (15歳～65歳未満)	62.0%	57.8%
年少人口 (15歳未満)	12.7%	10.2%

見附まちづくり市民アンケート結果 (まちづくりに関する設問: 上位3位まで)

H18年実施

設問	1位	2位	3位
地域を良好な住宅地にしていくために重要な取組み	空き家や空き店舗などへの対策 33.3% 区画整理や再開発事業による計画的なまちづくり 33.3%		住宅と農地の混在防止 20.0%
概ね10～20年後、どのような地域になれば良いと思うか。	防災・防犯性に優れた安心・安全なまち 46.7%	鉄道やバスなどの公共交通の便がよいまち 40.0%	身近な生活基盤(生活道路や子供の遊び場等)が整ったまち 33.3%
道路・交通等で特に重点的に取り組むべきもの	バスなど公共交通で中心市街地へ行きやすくする 40.0%	家のまわりの身近な生活道路を整備・拡幅する 13.3%	歩道を整備・拡幅したり、段差をなくす 6.7% 歩行者専用道路や自転車道路を整備する 6.7% 広域的な幹線道路を整備する 6.7% 中心市街地の駐車場を増やし、自動車で行きやすくする 6.7%
公園や緑地の整備等で特に重点的に取り組むべきもの	農地や休耕地を緑地として保全・活用する 33.3%	日常の子供の遊び場となる小さな公園や緑地づくり 20.0% 休日に家族で過ごせる大きめの公園や緑地・広場づくり 20.0%	
防災・防犯対策で、特に重点的に取り組むべきもの	犯罪防止に配慮した公共施設や街路灯の整備 53.3%	建物の耐震性向上や不燃化の促進 13.3% 河川の氾濫などに対する水害対策 13.3%	
自然環境や美しい街並みの景観のために重要な取組み	田畑等・農地を残し田園的風景を守っていく 46.7%	山や丘陵、水辺等の自然景観を残す 26.7%	屋外広告物を規制して、道路沿いの景観をきれいにする 6.7% 電柱を無くし、街路樹を整備するなど道路をすっきりきれいにする 6.7%

地域概況図(上北谷地域)



2) 地域将来像

① 目指す将来像

上北谷地域は、今後も豊かな自然環境を保全し、美しい田園風景の維持形成を図ります。また、地域の特性や資源を活かして市街地等との地域交流を促進し、安全で住み良い地域づくりを目指します。



■ まちづくり目標

- ・ 豊かな自然、美しい田園風景に囲まれたまちづくり
- ・ 地域の特性や資源を活かして交流するまちづくり
- ・ 防犯防災機能の高い安全な住み良いまちづくり

② 地域における拠点・都市軸

上北谷地域では以下の都市軸を配置します。

【上北谷地域の都市軸】

地域幹線軸：見附市街地と地域を結ぶ地域幹線道路(主要地方道)
河川軸：地域間をネットワークする主要な河川(一級河川刈谷田川)

3) 地域づくりの方針

① 土地利用の方針

【住み続けたくなる居住空間の形成】

- ◆ 集落地は、地域の活性化や地域コミュニティの維持に向けた取組みについて検討を進めます。
- ◆ 開発にあたっては環境悪化の可能性がある開発を抑制するなど、周辺環境や景観に配慮し、既存の集落環境と調和した秩序ある土地利用を誘導します。
- ◆ 公共交通による市街地とのアクセス強化や、住宅地における生活道路や公園緑地等の基盤施設の改善について検討するなど、住環境の向上を目指します。
- ◆ 都市計画法適用区域外の宮之原町、河野町等は、集落環境や営農環境に悪影響を与える建築行為や開発行為について防止するよう配慮します。

第4章◇地域別構想 (7) 上北谷地域

【安全で安心して生活できる空間の形成】

- ◆ 冬期間における安全快適な生活を確保するため、地域の協力を得ながら堆雪スペースの確保を図ります。
- ◆ 住宅の耐震化の誘導を図るほか、避難拠点の耐震整備などにより、災害に強いまちを目指します。
- ◆ 集中豪雨等の水害対策として、遊水地や排水施設が有効に機能するよう維持・管理し、水害に強いまちづくりを進めます。

【地域を支える産業空間の形成】

- ◆ 農用地については、今後も地域の重要な産業基盤として農業生産基盤の保全・整備を推進します。

② 交通体系の方針

【安全な歩行者空間の形成】

- ◆ 冬期間における歩行者の安全な移動を確保するため、通学路や主要な公共施設周辺の道路、交通量の多い幹線道路などは的確な歩道除雪により交通機能の維持を図ります。
- ◆ 高齢者や障害者が安全・安心して通行できるよう、歩道の段差解消や点字ブロックの整備など、バリアフリー化を推進します。
- ◆ 防犯灯の維持・改善などにより、夜間の安全な歩行空間の確保に努めます。

【公共交通によるネットワークの形成】

- ◆ デマンド型地域交通など、高齢者の地域交通の確保について検討します。
- ◆ 路線バス等の公共交通と地域交通との円滑な乗り継ぎ環境の整備等、利便性が高い公共交通ネットワークシステムについて検討します。

【地域実態に見合った交通体系の検討】

- ◆ 多雪地域における冬期の交通安全の確保など、地域で生活に支障を与えている状況に応じて改善を図ります。
- ◆ 環境への負荷がより少なく、健康づくりに効果が高い自転車利用の促進に向けた取り組みを強化し、自転車道や自転車レーン等のネットワーク化を検討します。
- ◆ 集落地内等で地域生活に支障を与えている行き止まり道路や幅員が狭い道路の改善等について検討します。

③ 公園緑地・都市景観の方針

【人々が憩い、ふれあいのあふれる公園緑地の形成】

- ◆ 既存のコミュニティ広場は維持改善を図るほか、公園等が無い地区では、空地地などを利用したコミュニティ広場等の整備について必要に応じて検討します。
- ◆ 刈谷田川や稚児清水川の良好な河川景観の保全を図るとともに、これらを有効に活用した散策路や公園施設整備等を推進します。

【人々が潤いややすらぎを感じる豊かな自然・良好な景観の形成】

- ◆ 丘陵地については、森林の維持・保全を図るとともに、レクリエーション利用など有効活用を検討します。
- ◆ 地域内の美しい自然景観は維持保全をし、また有効な活用方法について検討します。

④ その他の方針

- ◆ 城跡や遺跡、神社や伝統行事など、地域の歴史的資源の保存や継承を支援するとともに、地域活性化などの有効活用を検討します。
- ◆ 休耕田の有効利用や集落地の地域コミュニティ維持など、地域の活性化策について検討します。



池之島 ミズバショウ群生地



地域特性を活かした体験学習

第4章◇地域別構想
 (7) 上北谷地域

地域づくり方針図(上北谷地域)



地域の方々からの提案（地域別懇談会 ワークショップより）

上北谷地域の現状・課題

- 若者が定着しない。
- 水質がよく、良質な米が採れる条件を備えている。
- 畑が多く、ぶどう、ユリなど地場作物の種類が豊富、粳種の有数の生産地。
- 米価下落による休耕田増加、農業者の高齢化、後継者不足、農業の将来性への不安。
- 個々の耕作面積が小さい。
- 地場産の作物を直売できる場所がない。
- 集落と市街地を結ぶバス路線はあるが、集落内での高齢者の足となる交通機関がない。
- 田園や河川景観、太田の名水、林道など名所の存在、保全のための資金と人手の確保。
- 神保城、貝ヶ沢など城跡や遺跡が点在、PRや維持管理ためのシステムや資金不足。
- 上北谷まつりなど各神社で盛んなまつり、観光活性化の資金・人手・行政の支援不足。
- 除雪の悪い路線がある。
- 公園が足りない。
- 下水道の普及率が高い。
- 学区割を見直す必要がある。



地域づくりの取り組み案

定住人口

- 地域性を活かした魅力ある住宅地整備等による人口流出抑制と地域外からの定住促進。

交通

- 高齢者が自由に市街地に行ける、県道と地域をつなぐコミュニティワゴン等の整備。
- 冬期間の交通機能維持のための除雪強化、除雪困難箇所での融雪施設の整備。

交流拠点

- 上北谷小学校のスキー場のグレードアップによる冬期間の交流拠点の整備。
- 農作物の種類が豊富なことを活かした直売所や交流施設の整備。

持続の仕組み

- 自然環境保全のための支援組織の行政との協働による構築。
- 地域の伝統行事や遺跡などの保存・運営組織の行政との協働による構築。
- 冬期間も農業ができるようなシステムの構築。



